

令和3年5月28日
総合政策局情報政策課
交通経済統計調査室

トラック輸送情報（令和3年（2021年）3月分）

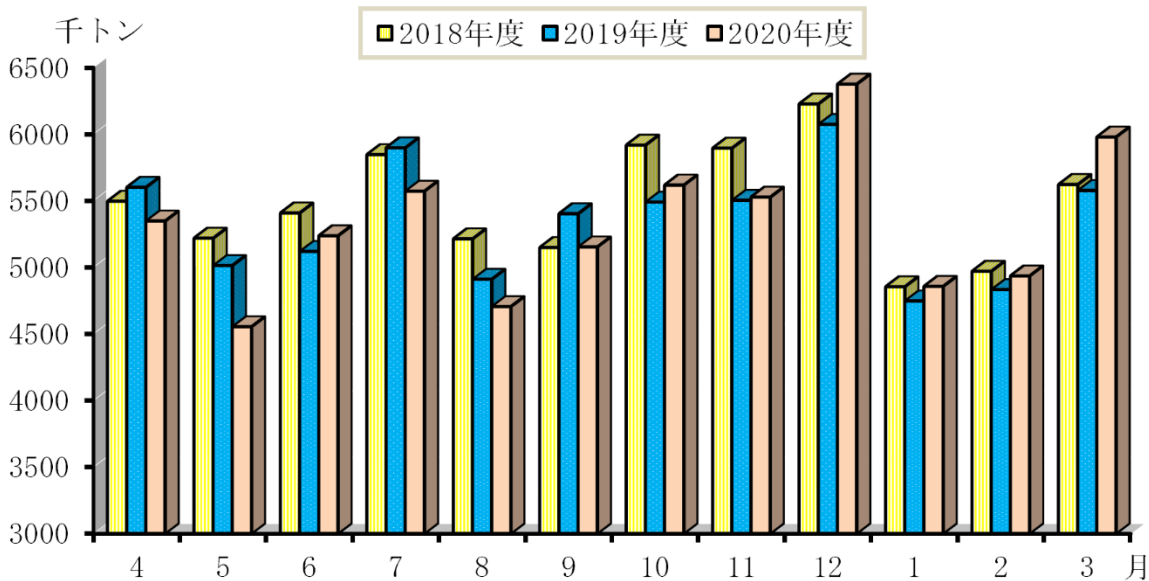
1. 特別積合せ貨物

（1）輸送トン数の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,980千トン（前月比121.1%（季節調整済み101.4%）、前年同月比107.2%）であった。

平均稼働日数は25.1日（前月に比べて3.7日増加、前年同月に比べて1.1日増加）、稼働1日当たりの輸送量は、238千トン（前月比103.3%、前年同月比102.5%）であった。

（図1-1、図1-2参照）

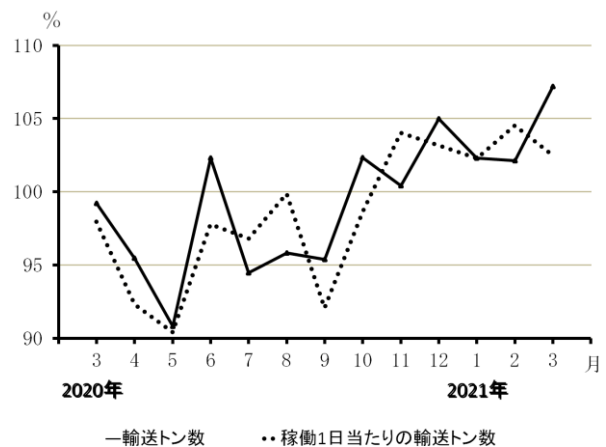


（図1-1）輸送トン数の推移

（表1）輸送トン数の推移 単位：トン

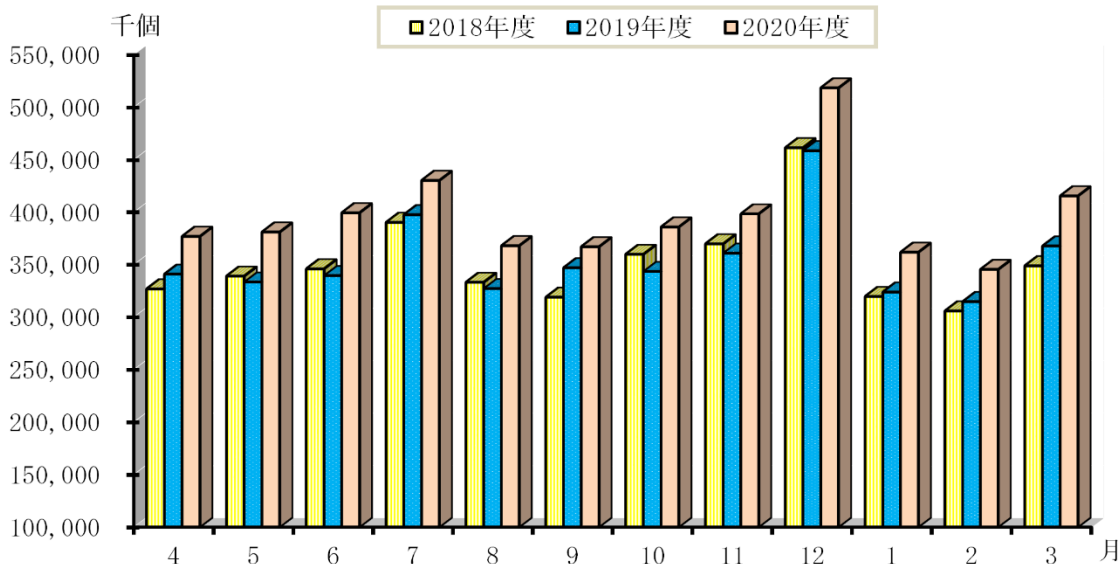
	2018年度	2019年度	2020年度
4月	5,497,729	5,601,729	5,348,972
5月	5,220,074	5,015,036	4,555,548
6月	5,409,298	5,120,320	5,238,017
7月	5,847,693	5,898,468	5,573,242
8月	5,215,129	4,911,540	4,706,799
9月	5,150,226	5,403,846	5,154,707
10月	5,918,918	5,491,067	5,618,684
11月	5,895,835	5,504,260	5,528,217
12月	6,227,936	6,074,691	6,376,479
1月	4,855,543	4,748,950	4,858,330
2月	4,971,787	4,833,970	4,936,844
3月	5,622,842	5,578,303	5,979,642
合計	65,833,010	64,182,180	63,875,481

（図1-2）輸送トン数及び稼働1日当たりの輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の概況

調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、415,780 千個（前月比 120.3%（季節調整済み 106.2%）、前年同月比 113.0%）であった。



(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移

(表 2) 宅配便取扱個数の推移 単位：千個

	2018年度	2019年度	2020年度
4月	327,198	341,192	377,206
5月	339,364	333,709	381,322
6月	346,286	339,789	399,727
7月	390,569	397,838	430,533
8月	333,511	327,487	368,312
9月	319,226	347,269	367,354
10月	360,103	343,816	386,172
11月	370,113	361,227	398,659
12月	461,691	458,841	518,682
1月	319,995	324,159	362,093
2月	306,194	315,034	345,708
3月	349,174	368,025	415,780
合計	4,223,424	4,258,386	4,751,550

(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別増減状況

調査対象 25 社における品目別及び地域別輸送状況について、主な増減要因は、以下のとおりであった。

品目別では、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」及び「日用品」で2ヶ月連続の増加となった。地域別では、「関東地方」、「北陸信越」、「中部地方」、「近畿地方」及び「中国」で2ヶ月連続の増加となっている。

a. 前月との比較

品目別	工場・生産地からの貨物増が「農水産品」以外のすべての品目で、商社・問屋から出る貨物増が「日用品」で、倉庫から出る貨物増が「金属製品」、「機械」及び「化学工業品」で、季節的需要増が「日用品」及び「宅配便」で、景気の影響による貨物増が「金属製品」及び「機械」で見られた。
地域別	「東北」、「関東地方」、「北陸信越」、「中部地方」、「近畿地方」及び「中国」で貨物増となっている。

b. 前年同月との比較

品目別	工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「化学工業品」及び「日用品」で、商社・問屋から出る貨物増が「日用品」で、倉庫から出る貨物増が「金属製品」、「機械」及び「化学工業品」で、景気の影響による貨物増が「日用品」で見られた。一方、倉庫から出る貨物減が「日用品」で見られた。
地域別	「愛知」、「近畿」及び「中国」で貨物増となっている。

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	2	10	3	東北、関東 中国		
	金属製品	1	7	11		その他の金属製品 北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、福岡	4, 7, 9	
	機械	2	6	9	1	電気機械、その他の機械 関東地方、愛知、近畿地方	4, 7, 9	
	化学工業品	4	9	7	1	合成樹脂、その他の化学工業品 東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7	
	繊維工業品	2	5	11	2	その他の繊維工業品 東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4	
	食料工業品	4	3	12		製造食品 東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4	
	日用品	5	4	10	1	書籍・印刷物 北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州	4, 5, 8	
	その他	3	4	13		宅配便 全国	4, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	2	1		
	金属製品		6	11	1	1	その他の金属製品 愛知、中国	4, 7
	機械	2	7	8		1	電気機械、機械部品、その他の機械 東京、愛知、近畿	4, 7
	化学工業品		9	10	1	1	その他の化学工業品 関東、北陸信越、愛知、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品	1	3	13	2	1		
	食料工業品	1	1	13	3	1		
	日用品		4	14	2	1	大阪、九州	4, 5, 9 7
	その他	1	4	11	1	2	宅配便 全国	

(注)「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート・スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気回復(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 地方運輸局等別輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 760 社／調査対象事業者数 968 社）の輸送量は、前月比 113.6%、前年同月比 104.6%であった。

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	104.6 %	110.9 %	104.0 %	101.0 %	110.9 %	95.3 %	98.6 %	99.9 %	101.3 %	111.2 %	82.8 %
前 月 比	113.6 %	107.5 %	118.5 %	113.6 %	128.4 %	110.2 %	113.9 %	113.4 %	108.3 %	117.0 %	145.1 %

(2) 地方運輸局等別管内輸送状況（運輸局等より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比107.5%、対前年同月比110.9%であった。品目別では、輸出入の貨物増により「石炭」が、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」が、季節的需要増により「動植物性飼・肥料」及び「取り合せ品」が、また、「機械」、「化学肥料」、「食料工業品」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、季節的需要減により「揮発油」が、また、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比118.5%、対前年同月比104.0%であった。品目別では、デパート・スーパーからの貨物増により「食料工業品」が、季節的需要増により「化学肥料」及び「輸送用容器」が、また、「木材」、「砂利・砂・石材」、「機械」、「繊維工業品」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比113.6%、対前年同月比101.0%であった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比128.4%、対前年同月比110.9%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の製造工業品」が、また、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比110.2%、対前年同月比95.3%であった。品目別では、季節的需要増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比113.9%、対前年同月比98.6%であった。品目別では、「食料工業品」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比113.4%、対前年同月比99.9%であった。品目別では、季節的需要増により「日用品」、「動植物性飼・肥料」及び「取り合せ品」が、また、「鉄鋼」、「機械」及び「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比108.3%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」が、季節的需要増により「取り合せ品」が、また、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物減により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比117.0%、対前年同月比111.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「金属製品」及び「取り合せ品」が、また、「セメント」、「食料工業品」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「鉄鋼」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比145.1%、対前年同月比82.8%であった。品目別では、輸出入の貨物増により「紙・パルプ」及び「日用品」が、また、「食料工業品」及び「輸送用容器」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入の貨物減により「金属くず」が、また、「金属製品」及び「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>

(3) 地方運輸局等別、品目別増減状況(対前月)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1.	穀物	増	1	1								2
		減		1								1
2.	野菜・果物	増							5	3		8
		減	1	1					4			6
3.	その他の農産品	増	1		1				1		2	5
		減	2								1	3
4.	畜産品	増		1							1	2
		減										
5.	水産品	増		1							1	2
		減									1	1
6.	木材	増	1	2			1		1		3	8
		減	1								3	4
7.	薪炭	増										
		減										
8.	石炭	増	3	1								4
		減	1									1
9.	金属鉱	増										
		減										
10.	砂利・砂・石材	増	3	2			1	1	1	2	4	14
		減	5							4	3	12
11.	工業用非金属鉱物	増	1								1	2
		減	1	1						1	1	4
12.	鉄鋼	増	1			1	1		2	2		7
		減	1	1							2	4
13.	非鉄金属	増	1			1						2
		減		1								1
14.	金属製品	増	1			1		1	1	2	3	9
		減		1						2	1	1
15.	機械	増	2	2	1	3	3	3	3		3	20
		減				1		2	1	2	2	1
16.	セメント	増	1	1			1		2	1	6	12
		減		1	1					1	1	4
17.	その他の窯業品	増				2	1		1			4
		減	1			1				1		3

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
品目	増		1						1			2
	減	2	2		1							5
18.揮 発 油	増	1								2		3
	減	2		1	1					1		5
19.そ の 他 の 石 油 製 品	増									1		1
	減											
20.コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増	1			1		1	1				4
	減	1										1
21.化 学 薬 品	増	2	4					1		1		8
	減		1									1
22.化 学 肥 料	増				1				1	1		3
	減									2		2
23.そ の 他 の 化 学 工 業 品	増	2	1				1	1	1	1	1	8
	減		2				1					3
24.紙 ・ パ ル プ	増		2					1				3
	減											
25.織 維 工 業 品	増	3	7				5	4	3	5	1	28
	減			1				4		2		7
26.食 料 工 業 品	増	2	2	1			2	4	1	6	2	20
	減							2	1	1		4
27.日 用 品	増		1	1	3	1		1		1		8
	減					1				1		2
28.そ の 他 の 製 造 工 業 品	増										1	1
	減											
29.金 属 く ず	増								1	1		2
	減								2			2
30.そ の 他 の く ず も の	増	3			1			2		1		7
	減									1		1
31.動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増		1									1
	減	2	1							1		4
32.廃 棄 物	増		2								1	3
	減											
33.輸 送 用 容 器	増	2	1	1	1		1	3	2	7		18
	減		2									2
34.取 り 合 せ 品	増	2	2		3	1		7	1	6	1	23
	減	6	1							2		9

お問い合わせ先：総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話：03-5253-8111（代表）

03-5253-8347（直通）

FAX：03-5253-1567

担当：濱、福富（内線28-734）